

彦根市の維持向上すべき歴史的風致

計画期間

平成30年度（2018）～平成39年度（2027）

彦根市は、琵琶湖の東岸に位置し、古くから畿内と北国・東国とを結ぶ交通の要衝として長い歴史を刻んできた。国宝の彦根城天守をはじめ5棟の重要文化財が指定されるなど、貴重な歴史的建造物が城山一体に現存し、国の特別史跡に指定されている。また、その周辺のまちにあっては、碁盤目を基調としつつも「どんつき」や「くいちがい」の道や路地が、彦根城下町特有の町割を形成し、要所に配置された寺院、武家屋敷、町家、足軽組屋敷などの歴史的建造物とともに旧城下町の歴史的景観を形成している。

また、旧城下町では、伝統的な工芸品である「彦根仏壇」の製造販売、祭礼行事や能と狂言の継承や茶の湯の伝統など、地域の歴史や伝統を反映した人々の活動が、城や社寺をはじめとする歴史的建造物などが相まって、情緒や風情を有する極めて良好な歴史的風致を形成している。

彦根藩井伊家の大名文化にみる歴史的風致

彦根では、彦根藩主井伊家により彦根藩の政治が執り行われているとともに、大名の教養として、「能や狂言」や「茶の湯」などが行われてきた。

また、佐和山神社の祭礼である佐和山まつりが起源とされる「城まつり」では、甲冑に身を包んだ人々が旗印を掲げ勇壮にパレードをする、大名行列や古式砲術演武があり、沿道に多くの観光客が訪れる彦根の秋の風物詩として定着している。

このように、旧城下町の歴史的建造物とともに、伝統芸能や伝統文化の継承によって、彦根藩井伊家の大名文化にみる歴史的風致が形成されている。

城下町の伝統にみる歴史的風致

彦根の旧城下町には、歴史的な風情があるまちなみが現在も残っている。その中の足軽組屋敷があった地域では、組を単位とした活動が現在も行われている。

また、江戸時代の創業という仏壇店が軒を連ねる七曲がりや、歴史的建造物内で昔ながらの魚屋、酒屋などの商いが行われている河原町がある。旧城下町の中では、千代神社の「神幸渡御」などの祭礼も毎年継続して行われている。

このように、旧城下町に残る歴史的建造物とともに、伝統工芸、社寺信仰などが現在までも続いており、城下町の伝統にみる歴史的風致が形成されている。



城まつり



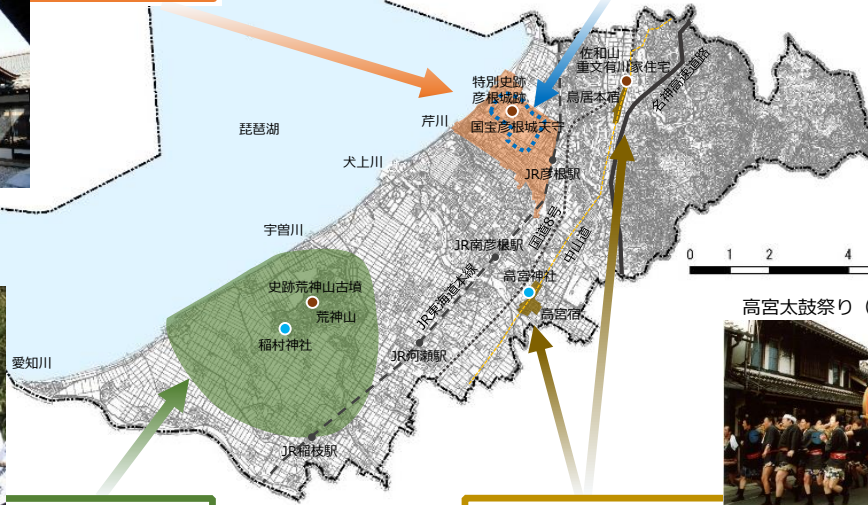
能舞台 (彦根城博物館)



荒神山



太鼓登山 (稲村神社)



- 凡例
- 国指定文化財
 - その他の歴史的建造物(社寺)



足軽組屋敷



伝統工芸 (彦根仏壇)



高宮太鼓祭り (高宮神社)



有川家住宅 (重要文化財)

荒神山にみる歴史的風致

荒神山周辺は、古墳時代後期に山中に小円墳が30基以上築造されるなど、古墳時代を通じて葬送の山として機能してきた。山頂近くには、荒神山古墳が築かれている。奈良時代以降、仏教の要素が加わり神仏への信仰の山となった。

山頂にある荒神山神社における「水無月祭」や山中の南西にある稲村神社における「太鼓登山」が良く知られる。

このように、荒神山周辺では、長く信仰の山として祭礼行事が存続しており、荒神山にみる歴史的風致が形成されている。

中山道の宿場町 (高宮宿・鳥居本宿) にみる歴史的風致

中山道の江戸から63番目の宿 (鳥居本宿) があった鳥居本の町では、名産の妙薬である「赤玉神教丸」を重要文化財の有川家住宅がある場所において、現在も製造販売が行われている。また、64番目の宿 (高宮宿) があった高宮の町では、往時は多くの人々が往来した町である。現在でも、高宮神社で行われる春祭りの「高宮太鼓祭り」は、大掛かりな祭りである。

このように、中山道の2つの宿場町では、歴史的建造物とともに生業や祭りが一体となって歴史的風致を形成している。

